

【Cブロック授業研究会】

参加者：鳥取市19名 米子市1名

指導助言：鳥取市教育センター 谷口 聡 指導主事



○協議の柱

「子供たちが主体的に課題解決に取り組めるようになることを目指した授業として本授業での教師の手立てはどうであったか？」

○成果

- ・導入で事前アンケートの結果を示したことで、児童にとって課題が身近なものとなって、学習を始めることができた。
- ・授業の前半では、しっかりと知識が入れてあり、ペア学習がとても活発であった。
- ・単元全体を見据えて、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の力をそれぞれどこで身に付けるかを考えた上で単元計画を練られていた。本時は「知識及び技能」を中心に据えた授業構成が考えられていた。
- ・「わたしの安全せん言」では、単元全体を通したことが書かれていた。
- ・鳥取市の提案する保健学習につながる、土台となるいい授業だった。

○課題

- ・保健学習で『技能』の評価をどのようにするのか。
- ・教師が知識を伝えすぎずに、児童に考えさせる余力を残しておくことも大切である。
- ・児童の実態を考えれば、ゆさぶる発問によって応用的に考えさせる場面があっても良かった。
- ・「なぜ水で洗う必要があるのか」ということを考えさせてもよかった。
→運動の価値を実感する学びにつながる。
- ・「安全せん言」を考える活動までを本時の内容とするのがよいのかどうか。